

フォレストニュース

pdf 原油価格の高騰は、近代文明が化石燃料を中心に発展してきたため、獲得競争をめぐって深刻な状況

原油高騰と食品高騰

刻な状況となっています。特に、発展が著しい、中国、インドにとって資源確保のために、あらゆる手立てを講じて、資源確保に躍起となっています。

最近の原油市場も1バレル（約159%）130ドルを超える状況です。一方、市販ガソリンも、160円時代から、遠くなく200円時代が見えてきています。

農作物の転用による、食料品の高騰。原油高騰に合わせて、各国政府が、バイオ燃料に力を入れています。原油の高騰が、バイオ燃料を現実化させています。自国でも生産可能な植物燃料に期待をかけているからです。特に、バイオ燃料に使われる、大豆、トウモロコシを中心に、価格が高騰しています。

ジャトロファに脚光

ジャトロファは、南洋アブラギリ（油桐）とも呼ばれ、16世紀以降、スペイン商人な



朝露を受けるジャトロファ

どによって、世界中に広まり自生しています。

ジャトロファは、樹高が5メートルから8メートル、25年から50

年栽培が可能で、6ヶ月後から収穫が始まります。やせた土地でもよく成長し、干ばつや病気に強いことが特徴です。種子は毒性が強く、食品には向きません。しかし、油分にきわめて富むことから、バイオ燃料として脚光を浴びています。

昨年、中国国営企業は、インドネシアに、ジャトロファ栽培のため1000億円以上の投資を発表しているほどです。

ジャトロファの耕作面積は、世界中で拡大しています。南米の



抽出し、実験データを収集、ナカタ氏

農場で、ジャトロファ栽培をしている、日系のミノル・ナカタ氏によると

「今まで打ち捨てられたような、何もできないと思われた土地に、このジャトロファを植えるからいいのです」と言い、「バイオ燃料のために、森林を伐採したり、貴重な動物や人間の食料を儲かるからと注ぎ込むことはよくありません。最貧国の人や、貧しい人たちは今や深刻な状況になっています。」さらに、実例として「ブラジルでも、ミカ

ンよりも、バイオ燃料が儲かると、大豆等にどんどん農地を転用しています。貴重に育てていた、ミカンの木を切り倒しています。結果は、柑橘類の価格がすぐに跳ね上



6ヶ月で1メートル以上に成長

がりましたね。」

私達の活動

地球温暖化のもととなる、CO2削減のための直接的解決に、バイオマス燃料は重要です。この、ジャトロファは栽培が容易であると共に、毒性があるため食用とはならず食料価格に影響を与えない点で、大変に重要です。

また毒性を利用して、動物の防護さくに利用したりと、あまり利用価値のない木として扱われてきました。これからは、地球を救う木として重要な役割を果たすようになるでしょう。私たちもジャトロファ植樹の継続をしています。

豆知識

バイオマスは有機物であるため、燃焼させると二酸化炭素が排出されます。しかしこれに含まれる

炭素は、そのバイオマスが成長過程で光合成により大気中から吸収した二酸化炭素に由来します。そのため、バイオマスを使用しても全体として見れば大気中の二酸化炭素量を増加させていないと考えてよいとされるものです。

NPO地球の緑を守る会

〒180-0023

武蔵野市境南町2-1-22和田ビル2階B

電話 0422-39-3324

ファックス 0422-39-3344